215859
2
昭和25年10月18日

第二号意見書

具視

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

士族教育又就産之議

士族ノ教育タル其要道徳ヲ養ヒ節義ヲ磨キ以テ國家元氣ノ叢ト為スニ在リ然ルニ恒産無キ者ハ亦恒心無キヲ以テ暫ク針路ヲ就産勧業ノ點ニ取リ各地人情習慣ノ宜キニ従テ之ニ生産ノ道ヲ授ケ其衣食稍ク足ルニ及テ之ニ申ヌルニ教育ヲ以センコトヲ欲ス方今國費多端興起スヘキノ事亦多シ就中海陸二軍ノ如キ固ヨリ之ヲ振張セサル可ラスト雖モ士族ノ元氣ハ即チ國礎ノ堅キ所ナルヲ以テ其氣ノ充餘ハ亦大ニ海陸二軍ニ影響スルモノトス是レ具視ノ宿昔冊心ヲ布キ之ヲ論疏シテ措カサル所以ナリ今ヤ閣議畧ヽ帰着ヲ同フセラルヽニ於テハ速カニ陛下ノ特旨ヲ以テ御手許

ヨリ年金壱百五拾万円ヲ士族教育及ヒ就産ノ為メ永世下賜セラルヘキ趣ヲ發表シ就産事務ヲ執行セラレンヿヲ冀望ス

惟フニ全國壱百八十三万六千餘人（戸數四十万零三千二百三十四）ノ士族生計日ヲ逐フテ困縮ス今之ヲ救テ其恒産ヲ授ケンニ一百五十万円ハ永世ノ下賜ニ非レハ陛下優渥ノ徳澤モ其就産脩徳ノ成績ヲ得セシムルニ難シトス且ツ就産ノ事務ヲ執行センニハ勧業局定額金拾貳万円ハ亦之ヲ支給セサルベカラサルモノナリ夫レ士族ノ困窮既ニ極マレリ之ヲシテ就産修徳ノ途ニ趨カシムル真ニ此機ニ在リ若シ今日ヲ放過セハ復之ヲ如何トモスルヿ能ハサルノミ古人曰ク一年之計ハ莫如樹穀ヲ十年之計ハ莫如樹木ヲ百年之計ハ莫如樹人ト今我國千歳ノ計ヲ為ス實ニ士族ヲシテ徳義ト勧業トヲ樹立セシムルニ在リ因テ左ニ勧業局ノ組織及ヒ就産ノ方法ヲ掲ケ謹テ閣議ヲ請フ

明治十五年十一月　　具視

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

宮内省ニ勧業局ノ組織

族勧業ノ事務ヲ司ラシメ事ノ各省ニ關スルモノハ之ヲ其卿ニ議シ事業ノ執行ハ地方官ヲシテ負擔セシム

ヲ其組織左ノ如シ

勧業局ハ陛下ノ特旨ヲ遵奉シテ士族勧業ノ事務ヲ總裁

一本局ノ官員ヲ統率シ主管百般ノ事務ヲ總理ス

一負　大臣參之

但本局ノ事務ハ十ヶ年ヲ以テ期限トスルカ故ニ本局設置ノ期限モ亦十ヶ年トス

勧業局職制

勧業局ハ陛下ノ特旨ヲ遵奉シテ士族勧業ノ事務

ヲ司ル

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

一本局奏任官ノ進退黜陟ハ之ヲ具状シ判任以下之ヲ専行ス

一士族一般勧業ニ關スル制度及新創ノ事業ハ之ヲ具状シ其他ハ適宜決行ス

一主管ノ事務ニ付地方官及ヒ士族一般ニ令達又ハ訓状ヲ下附スルヿヲ得

副總裁　一員　宮内卿兼之

一總裁ノ職掌ヲ輔ク

一總裁事故アルトキハ事務ヲ代理ス

勧業官　六員　元老院参事院議官各二人農商務省宮内省輔官各一人兼之

一局務ニ参與シ各部ノ事務ヲ提理ス

（全國ヲ分劃シテ六區トシ勧業官一人一區ヲ受領シ區内勧業ノ事務ニ任ス）

右相當本官ニ依ル

勧業官補　十二員　官省院奏任官兼之

一總裁ノ命ヲ受ケ勧業官ノ職掌ヲ輔ク

（勧業属ヲ率テ各區ヲ二人ツヽ分任ス）

右相當本官ニ依ル

勧業属　十二員　官省院判任官兼之

一庶務ニ従事ス

右相當本官ニ依ル

（別ニ総裁ノ職権ヲ以テ勧業委員及勧業諮問員ヲ囑任スルヿ左ノ如シ）

勧業委員長　府縣毎ニ一人　該府縣ニ本籍ヲ定メタルモノ

勧業委員

一 総裁并ニ府知事縣令ノ命ヲ受ケ勧業ノ事務ヲ調理ス

一 府縣毎ニ委員長副委員長委員ノ内一人交代シテ本局ニ詰合モノトス

（報酬金一ケ年百円）

（其府縣ニアル者ハ府知事縣令ノ徴召ニ因リ又ハ期ヲ定メ府縣廳中ノ勧業委員事務所ニ集會シ士族授産ノ事務ヲ取扱フモノトス）

勧業委員副長 府縣毎ニ一人 仝

一 委員長ノ職掌ヲ輔ク

一 委員長事故アルトキハ事務ヲ代理ス

（報酬金一ケ年八十円）

（角石）

勧業委員 府縣毎ニ八人 仝

一 委員長ニ屬シテ庶務ニ從事ス

（報酬金一ケ年六十円）

右府知事縣令ノ具狀ニ依リ總裁之ヲ嘱任シ報酬金ヲ給與ス其額ハ一年百円以下六十円以上總裁適宜之ヲ定ムル

（右士族平民ノ内撰任但士族ノ數少ナキ地方ニ在テハ恩賜金ノ分配亦多カラサルヲ以テ定數ノ委員ヲ置カサルコトアルヘシ）

（其屬ハ、宮内省限ノ取扱ニシテ身分官吏ニ非サルモノトス）

（縣會議員撰挙等ニ差支ナキモノトス）

其任命ノ方法府縣毎ニ委員長以下合セテ十人内

勸業委員長同副長ハ郡長ニテ兼ルモ妨ケナシトアリテハ如何

（報酬金一ヶ年百円）

一総裁并ニ府知事縣令ノ命ヲ受ケ勸業ノ事務ヲ調理ス

一府縣毎ニ委員長副委員長委員ノ内一人交代シテ本局ニ詰合モノトス

（其府縣ニアル者ハ府知事縣令ノ徴召ニ因リ又ハ期ヲ定メ府縣廳中ノ勸業委員事務所ニ集會シ士族授産ノ事務ヲ取扱フモノトス）

勸業委員副長　府縣毎ニ一人　仝

（報酬金一ヶ年八十円）

一委員長ノ職掌ヲ輔ク

一委員長事故アルトキハ事務ヲ代理ス

（角石）

勸業委員　府縣毎ニ八人　仝

（報酬金一ヶ年六十円）

一委員長ニ属シテ庶務ニ従事ス

右府知事縣令ノ具状ニ依リ総裁之ヲ囑任シ報酬金ヲ給與ス其額ハ一年百円以下六十円以上総裁適宜之ヲ定ム

（右士族平民ノ内撰任但士族ノ数少ナキ地方ニ在テハ恩賜金ノ分配亦多カラサルヲ以テ定数ノ委員ヲ置カサルヿアルヘシ）

（其囑任ハ宮内省限ノ取扱ニシ身分官吏ニ非サルヲ以テ府縣會議員撰挙等ニ差支ナキモノトス）

（其任命ノ方法府縣毎ニ委員長以下合セテ十人内

六人ハ士族ヨリ四人ハ豪農巨商ヨリ撰任ス但撰任ノ時ニ当テハ局員ト地方官ノ協議ヲ盡シ揀擇其器ヲ得ルヲ要ス

（更ニ之ヲ案スルニ目下ノ形勢上下乖離ノ状著シク官民軋轢ノ跡少シトセス是尤モ急ニ調和ノ術ヲ施スヘキノ時トス然レ𪜈温厚篤實ノ古老存スル者猶過半ナルヲ以テ頗ル　皇室ヲ尊奉スルノ美俗アリ故ニ豪農巨商タル者政府ノ特命ヲ奉スルヲ以テ榮譽トシ郷黨亦之ヲ欽羨ス今各地方ノ農商中ニ就テ其少シク財産名望アリテ隣里郷黨ニ顕ハル、者ヲ見ルニ戸長若クハ衛生委員ナラサレハ必ス郵便取扱役ナリ夫レ戸長衛生委員ノ如キ其薄俸固ヨリ得失相償フニ足ラス又郵便局ノ如キモ僻陬地方六七等局ニ至テハ勞多クシテ利少ク實ニ其費用ヲ償フニ足ラストス若シ此輩ニシテ專ラ他ノ業務ニ從事セハ其利決シテ戸長以下ノ諸給料ヲ以テ比ス可ラス然ルニ之ヲ為サス却テ官途ニ近キ事務ニ從フヲ好ミ戸長ノ如キ其改撰ノ期ニ当テハ或ハ人民ニ賄シ若クハ投標ヲ買ヒ百方其撰ニ當ランヿヲ求ム其故何ソヤ他ナシ御用ノ二字ヲ以テ門楣ヲ耀カシ郷黨ニ鷄口トシテ其氣ヲ吐カント欲スルニ在ルノミ夫レ此輩衣食住ノ三者ニ於テハ既ニ足レリ足ラサル所ノ者一ニ榮譽ノミ故ニ其之ヲ求ムルノ情渇者ノ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

飲寒者ノ衣ニ異ナルヿナシ亦何ソ利ト不利トヲ
顧ルニ遑アランヤ益シ皇室ハ光榮誉望ノ淵源
ナリ故ニ下民喁然トシテ此ニ嚮向スル是レ自然ノ
勢ナリ今上下ノ調和人心ノ收攬ヲ要スルノ時ニ
当テ能ク下情ニ由テ其勢ヲ御サハ何ソ上下ノ乖
離ヲ憂ンヤ故ニ以謂ラク今各地方ノ豪農巨商ヲ
撰ンテ勧業委員トスルニ於テハ第一就産ノ方法
實地ニ適当スルヲ得ヘシ第二地方豪農巨商ノ心
ヲ收攬スヘシ第三上下調和ノ一策ナルヘシ
前條ノ理由ナルヲ以テ地方ノ巨室タル者勧業委
員ニ撰任セラルヽ時ハ一ハ以テ其榮誉ニ因テ内
心自ラ満足シ愈〻皇室尊奉ノ志ヲ増スヲ得ヘ
ク一ハ以テ其智ヲ研キ才ヲ長スルニ足ルヘシ故
ニ後来官吏撰任ノ如キ自ラ是輩中ニ就テ人物ヲ
得ルニ易カルヘシ且ツ緊スルニ後日 皇室直隷
ノ山林等ヲ置カルヽニ当テハ數所ノ宮内省出張
等ヲ設ルニ及ハス此勧業委員ニ準シテ地方ノ巨
室ヲ撰ミ其事務ヲ委任セラレハ人民大ニ 皇室
ニ向フノ情ヲ増スヘク又大ニ山林事務ノ繁ヲ省
クヘシ益シ聞ク日耳曼ニ於テハ豪農巨商ノ名望
才識アリテ國家ニ勲勞ヲ致ス者ニ商務議員同樞
密議員農務議員同樞密議員等ノ尊稱ヲ與ヘテ其
榮誉タラシムト今我國ニ勧業委員ヲ置カハ其法
稍〻似タルモノアルカ如シ但彼ハ有名無實ノ嫌ア

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

勸業諮問委員　無定員（九六十人）旧藩華族令扶ノ内（報酬金一ヶ年貳拾五圓以内）

一本局ノ諮問ニ對シ意見ヲ申陳ス

右總裁之ヲ囑任ス

リテ此ハ則チ否ラス改略ノ道ヲ得ル彼ニ在ラス

シテ此ニ存スト云フ可シ

勸業局事務章程

第一條・士族中自營生活ノ途ナキ者ニ先ツ産業ヲ勸メテ力食セシムヘシ但左ノ各款ニ掲クルモノハ本條ノ限ニアラス

一官吏タル者

一銀行諸會社ノ役員タル者

一凡ソ一ヶ年六十圓以上ノ歳入アル者

但第三款ニ掲クル所ノ者ト雖モ府知事縣令ノ具狀ニ依リ仍ホ本條ニ據ルコヲ得

第二條　士族中自營生活ノ途アル者ノ子弟ニ道徳學及農業若クハ工業ノ學科ニ就クコヲ勸ムヘシ

按スルニ目今既ニ自營生活ノ途ヲ得タル者及後

来就産勧業ノ恩典ニ依テ自営生活ヲ得ル者ニハ子弟ノ教育ヲ以テ急務ト・スルカ故ニ学校ヲ立テ其智識ヲ培養セシムヘシ但其学校教育ノ科目ハ道徳学ヲ以テ大体トシ農業工藝ノ二科ヲ教フルモノトス

第三條 勧業ノ種類ヲ大別シテ三トス

一開拓及農業

地廣ク民少ク耕耘ニ堪ユヘキ所ニ在リテハ原野又ハ海岸ノ良土ヲ相シテ専ラ開墾ニ従事セシメ或ハ開墾會社ヲ結テ衆力ヲ合シ或ハ之ニ農具、小屋掛料等ヲ貸與シ種穀ヲ分配ス又農桑ヲ便トスル所ニハ種穀、農具、桑葉、蠶種、等ノ代價ヲ貸與シ或ハ養蚕所ヲ設ケ桑畑ヲ開カシム

一製造及工業

製造ノ事業ニ利益アル所ニハ先ツ其地ノ元品及製造品ノ市價及景況ヲ察シ世間需用供給ノ度ヲ審カニシテ或ハ製茶場、製絲場、機織場、抄紙場、製陶所等ノ業ニ就カシメ又從前手内職等ニ慣レタル所ニ於テハ其地旧来ノ産物トシテ賣捌キ多キモノヲ擇ヒ猶世間需用ノ度ヲ考ヘ或ハ賃機織、元結拈、傘張、團扇、扇子等ノ細工其他竹細工紙細工等ノ男女ノ諸工業總テ其地適当ノモノヲ撰テ業ニ就カシム

一雜業

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

人口稠密ノ都會及府縣廳所在ノ地ニ於テハ諸官
衙ニテ新タニ要スル所ノ雜業ノ内譬ヘハ諸兵ノ
制服、巡査ノ制服、活版摺等其他有益ノモノヲ撰テ
業ニ就カシム

凡ソ就産ノ方法タル遠ク利害ヲ察シ深ク損益ヲ
慮リ永久ノ持續ヲ目的トスルヿナレハ徒ラニ巨
大ノ工場ヲ建テ美麗ノ會社ヲ設クル等ノ事ナク
專ラ土地ノ風俗ニ從ヒ習慣ニ因テ着實ノ進歩ヲ
計ルヘシ故ニ其方法細目ニ至テハ地方官及勸業
委員等ノ實地ニ就テ深切ニ之ヲ計劃スヘキヿ勿
論ナレトモ猶本局ノ監督視察ヲ必要トスルニ由リ
本局官吏ハ不断ニ各地方ヲ巡回シテ事業ノ利害

得失ヲ考察シテ其方向ヲ指示シ又既ニ産業ヲ得
タル者ノ子弟アラハ之ヲ奬勵シテ学ニ就カシム
ヘキヿ第二條ノ如クナルヘシ

又前掲三種ノ内細目ノ産業ニ至テハ紙上ニ盡ス
ヘキニ非ルヲ以テ地方官及委員ニ於テ之ヲ撰ム
ヘシトス且ツ起業ノ初ニ当テ尤モ注意ヲ要スヘ
キハ士族就産ノ為メニ平民ノ営業ニ障碍ヲ及ハ
シムルヿナキ是ナリ蓋シ此ノ勸業事務ノ影響ヲ
以テ平民ノ恒産ヲ破リ常業ヲ妨クル等ノヿアリ
テハ陛下カ一視同仁ノ思食ニ背クノミナラス
其弊終ニ計ル可カラサルカ故ニ深ク之ヲ斟酌ス
ヘキヿトス

第四條　本局事務ヲ分掌スル爲メニ全國ヲ分劃シテ六部トス

第一部

第二部

第三部

第四部

第五部

第六部

第五條　事務取扱順序ハ左ノ如シ

一地方官ハ勸業委員ニ於テ興起スヘキ事業ノ種類及資金ノ數目起業ノ手續等詳細取調シメ仍ホ之ヲ精密ニ調査シテ其意見ヲ付シ本局總裁ニ稟議スヘシ

一本局總裁ハ之ヲ主務部ニ於テ査理セシメ或ハ之ヲ各部ノ評議ニ付シ之ヲ指揮ス

第六條　本局ハ常ニ職員ヲ巡回セシメ事業ノ利害得失ヲ視察セシメ其事体重大ナルモノハ之ヲ奏上

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

恩賜金分配ノ目途

陛下特恩ノ金壱百五十万円ハ固ヨリ永世下賜セラルヘキナレハモ先ツ以テ十ケ年ヲ一期トナシ其一期ニ至ラハ士族就産及ヒ学校ノ景況ヲ奏聞シ猶且ツ本局ノ議ヲ盡シテ之ヲ具状シ更ニ陛下ノ恩食ヲ伺ヒ後来ノ處分ヲ定ム可シトス

今恩賜金壱百五十万円ヲ士族戸数ニ應シテ各府縣ニ配分スルトキハ其計算左表ニ示スカ如シ

戸数ハ十四年一月一日調ニ據ル故ニ墨書シタル府縣ハ分合ニ係ルモノニ付此調モ追テ分合計出

府縣名	戸数當 一戸ニ付金三、七一九九二	戸數
東京	八五、六三三	二三、〇二〇
京都	二一、九九三	五、九一二
大阪	六、七八四	一、八二四
神奈川	八、五二三	二、二九一
兵庫	三四、四一〇	九、二五〇
長崎	一二一、〇九一	三二、五五二
新潟	二八、九一五	七、七七三
埼玉	九、四八九	二、五五一
千葉	一七、三四二	四、六六二
茨城	二四、九八二	六、七一六
群馬	一六、三四六	四、三九四

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

栃木	堺	三重	愛知	静岡	山梨	滋賀	岐阜	長野	宮城	福島	岩手
九、三二五		一八、三〇九	四四、〇七三	三五、三三九	八六七	二〇、五七八	一三、一七六	二四、二一七	二五、一一七	二七、三〇七	八、三五一
二、五〇七		一、八三〇	一、八四八	九、五〇〇	二三三	三、五五二	五、三四二	六、五一〇	六、七五二	七、三四一	二、二四五
五、六五九		四、九二二	一一、八四八	九、五〇〇	二三三	五、五三二	三、五四二	六、五一〇	六、七五二	七、三四一	二、二四五
二、五〇七		一八、三〇九	四四、〇七三	三五、三三九	八六七	二〇、五七八	一三、一七六	二四、二一七	二五、一一七	二七、三〇七	八、三五一

青森	山形	秋田	石川	島根	岡山	広島	山口	和歌山	徳島	愛媛	高知
二二、六三六	四六、一八六	二八、七八八	八八、二七〇	四一、一三四	三五、〇三一	二九、六五九	六〇、三九三	二九、二六八	二七、〇七〇	五五、一〇〇	三八、六一三
六、〇八五	一二、四一六	七、七三九	三、七二九	一一、〇五八	九、四一七	七、九七三	一六、二三五	七、八六八	七、二七七	一四、八一二	一〇、三八〇
二、五〇七	一		二	一			一			一	一
二二、六三六	四六、一八六	二八、七八八	八八、二七〇	四一、一三四	三五、〇三一	二九、六五九	六〇、三九三	二九、二六八	二七、〇七〇	五五、一〇〇	三八、六一三

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

福岡	六六、四九八	一七、八七六
大分	二七、〇六三	七、二七五
熊本	五八、二五四	一五、六六〇
鹿兒島	二二二、八一六	五九、八九八
總計	一五〇〇、〇〇〇	四〇三、二三四

抑〻本件ハ全國一般ノ士族ニ普及スヘキナレ𪜈此按ニ挙ル所ハ從前ノ慣例ニ據テ沖縄縣及北海道ノ士族ヲ除キタリ然レ𪜈將来時宜ニ由リ該地方ノ士族モ亦内地士族ト同シク之ニ恩典ヲ施サルヽヿヲ要スヘシ此場合ニ至テハ此按ニ準シテ特ニ恩賜ヲ仰クヿアルヘシ

授産事務ノ順序ハ前ニ陳スルカ如ク先ツ勧業委員ニ於テ篤ト興起スヘキ事業ノ種類及資金ノ数目起業ノ手續等ヲ定メテ之ヲ地方官ニ出シ地方官ハ之ヲ精密ニ調査シテ後本局ニ伺ヒ本局之ヲ可ト認メテ指令シタル以後ハ地方官ニ於テ專ラ其授産事務ヲ監督スルノ責ニ任スヘシ

前條ニ示ス所ノ方法順序ニ從テ産業ヲ授ケ又其資金ヲ運用シ之ヲ誘ヒ之ヲ勵スヿ十年ニ至ラハ積ムヿノ久シキ初メ收益少ナキノ産モ漸クニ利潤ヲ増加スヘク初メ拙劣ナリシ業モ漸クニ習熟ヲ致スヘシ勧業局若シ能ク地方官及ヒ地方勧業委員ヲ監督シ深ク計リ切ニ圖テ其力ヲ盡サハ授産勧業ノ好結果ヲ得ンヿ決シテ疑フ可キニ非ル

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 293-2

勧業局ノ定額

一金勧業局一年間ノ費ヲ定ムルヿ左ノ如シ

一金拾貳万円　給與

内

金七万七千六百四拾九円三拾七銭五厘　旅費日当

金四万九千七拾円　傭給

金七百三拾九円三拾七銭五厘　雑給

金貳万七千八百四拾円

金壱万六千八百円　廳費

内

金壱万弐千円

需用費

金四千八百円

地方需用費

金弐万五千五百五拾円六拾弐銭五厘

準備金

勧業局定額金ノ内譯

一金三千七百五拾円　勅任官三人分旅費

但壱ヶ年ノ内二百五十日間(凡ソ七ヶ年三分ノ二強)六區ノ内三區壱人宛視察巡回ノ積壱人一日五円ノ割ヲ以如此

一金三千円　奏任官三人　仝上

但仝上壱人一日四円ノ割ヲ以如此

一金四千五百円　判任官六人　仝上

一金三千六百円　勧業委員四十人出京旅費

但各府縣委員壱人宛壱ヶ年一度交代トシ出京往復平均片道百五十里トシ一日十里詰一日三円ヲ給シ一人分往復九拾円ノ割ヲ以テ如此

一金壱万弐百弐拾円　仝上滞在日当

但仝上六區壱人宛巡回壱人一日三円ノ割ヲ以如此

一金弐万四千円　仝上管内旅費

但在府縣委員一府縣各九人ノ内四人宛壱ヶ年ノ内百日間管内巡回ノ積ヲ以壱人一日壱円五

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

十銭ノ割百六十人分如此

一金三百拾九円三拾七銭五厘　給仕七人分日給
但壱人一日拾貳銭五厘ノ割ヲ以如此

一金四百貳拾円　小使七人分月給
但壱人一ヶ月五円宛ノ割ヲ以如此

一金貳万六千円　勧業委員報酬金
但一府縣各委員長一人此年給各百円副長壱人
此年給各八十円委員八人此年給各六拾円宛支
給ノ割ヲ以三府三十七縣分如此

一金千四百四拾円　勧業諮問員慰労
但旧藩華族令扶ノ内諮問員六十人ト シ毎二期
ニ品物下賜ノ積ヲ以一人分貳拾四円宛ノ割如

此

一金壱万貳千円　需用費
但本局創始ニ係ルヲ以テ別ニ準依スヘキ適例
モ無之ニ付一ヶ年ノ経費定額金ノ拾分ノ一ト
シ見積如此

一金四千八百円　地方需用費
但右仝断ニ付壱ヶ月一廳拾円ト見積如此

一金貳万五千五百五拾円六拾貳銭五厘　準備金
今本局ノ費額ヲ定ムル極メテ省約ニ従ヘリ故
ニ後来十年間事務ノ景況ニ應シテ更ニ多少ノ
増額ヲ要スルコアルヤモ計ラレス故ニ此金額
ヲ準備スルハ甚タ肝要ノ事ナリトス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2

以上拾貳万円ハ特旨恩賜金一百五拾万円ノ外十ヶ年間ヲ限リ國庫ヨリ支給スルモノトス

官記及布告案

一勅奏判官ノ官記ハ一般公規ニ依ル勸業官同補同属分掌ノ辞令ハ左ノ如シ

勸業官氏名	第何部長被仰付候事	年月日	勸業院
勸業官補氏名	第何部事務取扱被仰付候事	年月日	勸業院
勸業属氏名	第何部事務取扱申付候事	年月日	勸業院

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 293-2

一勸業委員諮問員ノ任状并ニ辞令ハ左ノ特別式ニ依ル

氏名	勸業委員長氏名
嘱任勸業委員長	某府(縣)擔當申付
	候事
勸業院総裁位勲氏名	但報酬金一年百円下賜
年月日	候事
	年月日 勸業院

一副委員長委員ナレハ副委員長又ハ委員ト記シ副辞令但書百円トアルヲ八十円若クハ六十円トス

氏名
嘱任勸業諮問員
勸業院總裁位勲氏名
年月日

一般官記ニ準スレハ書記官即勸業官補奉スヘキモノナレ𪜈特ニ総裁ノ名ヲ記シ其優待ナル所ヲ示ス

一総裁副総裁被任候翌日勸業官同補ノ内若干拜命又

其翌日勧業属内若干拝命ノ事

一出京地方官ニ恩賜金并ニ勧業院設置趣旨勅諭ニテ仰出サレ度事

一出京地方官ヲシテ先ツ勧業委員長ヲ撰挙具状セシメ之ヲ東京ニ呼出ス事

一勧業院職制并章程發令ノ節ハ左ノ通公達ノ事

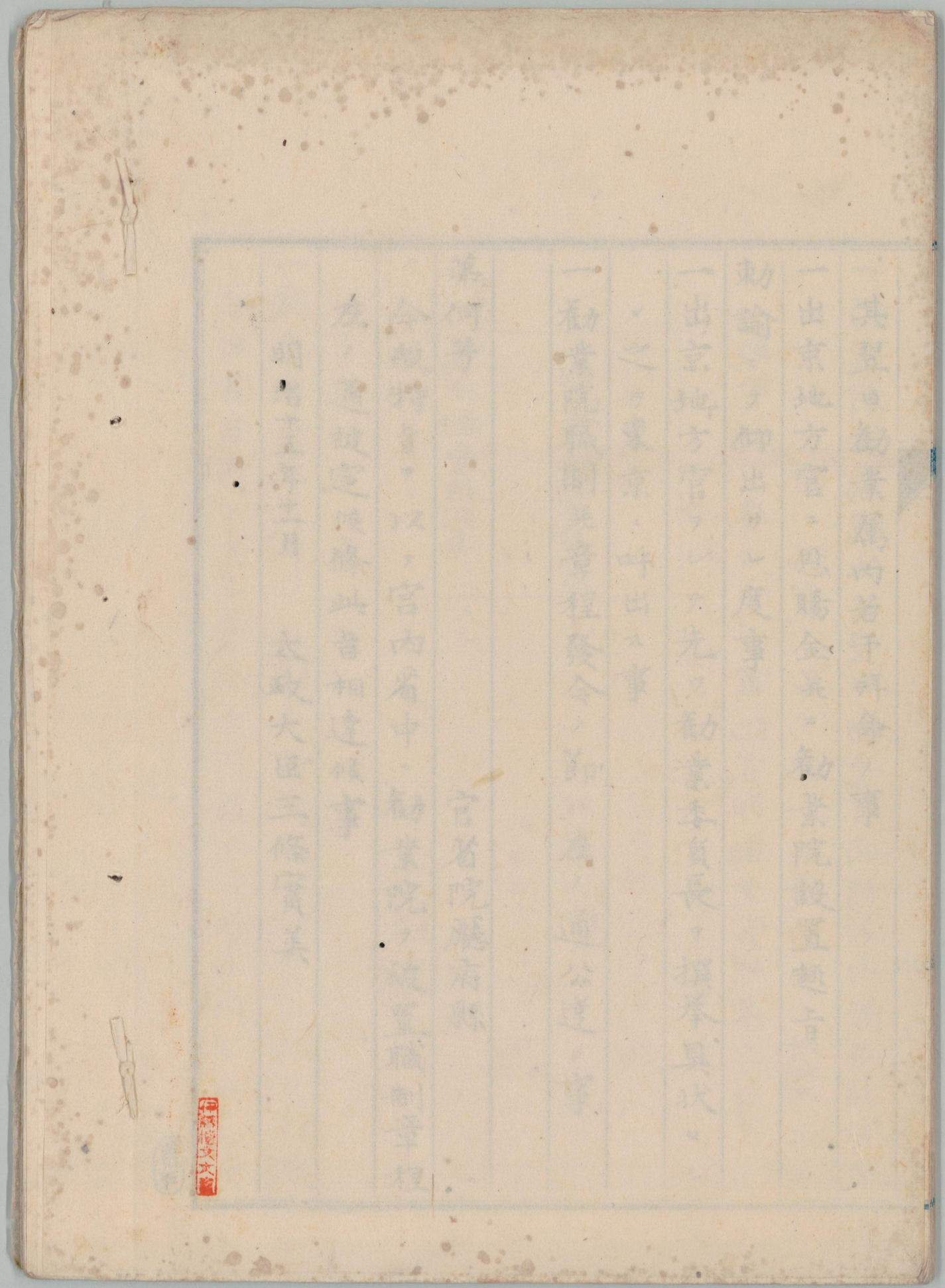
第何号

官省院廳府縣

今般特旨ヲ以テ宮内省中ニ勧業院ヲ被置職制章程左ノ通被定候條此旨相達候事

明治十五年十月　太政大臣三條實美

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2



国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 293-2